



『枕状餅鉄（もちてつ）30』

2011年2月1日、『鉄鉱石と書いてあるよ！』運送店のお兄さんが重そうに運んできました。ダンボール箱の中にお米を入れる袋があり、その中に梱包されていました。贈り主は中川淳様、『いわてたたら研究会』会長で、元「釜石市立鉄の歴史館」の館長も経験された方です。送り状にこんな文章がっていました。

餅鉄を今日発送しました。正味20.2kgあります。展示に際しお願いがあります。

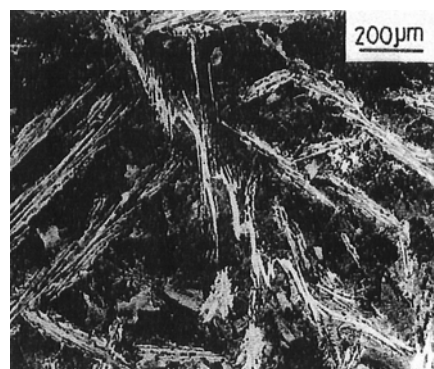
- 1、乾いた布でよく拭いて、よく撫でてあげてください。手の油で黒々とした光沢になります。
- 2、私が館長をしておりました「釜石市立鉄の歴史館」でも同じような餅鉄を展示しています。大きい磁石を乗せておき見学者が磁力を体験できるようにしたらどうでしょう。

今回送る餅鉄も65～70%の高品位のものです。還元して製鉄をする際には直径1cmくらいに砕きます。一度火に入れると砕けやすくなります。歩留まりの高い原料です。ただ、刀工は纏まりにくい鋸（ケラ）だといいます。むらの鍛冶屋の小さな鉄の博物館が大きな役割を果たされる事を祈ります。手紙はこう閉じられていました。

1997年、初めて岩手県の餅鉄を頂いた時、（株）ニッテクリサーチ様のご協力で分析して頂きました。12月の『夢通信』に書いた天然磁石と同じ時のもので赤黒い色をしていました。羽内谷鉱山の砂鉄、兵庫県千種町の砂鉄の分析結果も列記しています。



餅鉄の顕微鏡写真



資料名	T-Fe	SiO ²	Al ² O ³	CaO	MgO	TiO ²	Mn	Na+K	C
餅鉄－釜石	69.9	0.9	0.3	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.02
砂鉄－羽内谷	54.9	13.7	2.9	0.6	0.3	2.4	0.5	1.0	0.02
砂鉄－千種	50.4	16.1	4.0	1.1	1.3	3.4	0.4	0.6	0.05

中川 淳 様のこと

3月23日電話がかかってきました。『中川です！、震災で自宅が流され、今、息子のいる西宮市にいます。明日にでも『鉄のふしぎ博物館』を見学に行きます。』被災されたが、元気な声を聞き安心しました。

数年前、東京で開催された（社）日本鉄鋼協会の社会鉄鋼工学部会でお会いしたのが初めてでした。以来文通が続いていました。中川さんは元中学教諭で技術科担当でした。製鉄地をひかえた釜石で、金属加工教育に着目し、たたら製鉄を永年にわたり指導してこられました。退職後は地域の子供や町おこしに製鉄実習を行われ2007年には文部科学大臣表彰もお受けになり、鉄の歴史館の館長も勤められました。

『鉄のふしぎ博物館』開館

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかかりますよ。
ぜひお越しください。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/>
ryou@memenet.or.jp
bike@kanamonoya.co.jp

むらの鍛冶屋®



各地の鉄鉱石・砂鉄をお持ちの方はおゆずりください。

何でもお気軽にお尋ねください！！